



## 「ツタンカーメン王のえんどう豆」

校長 内山 茂



皆さんは、本校に野菜畑があることを知っているだろうか。野球グラウンドの3塁側・石垣の上であり、今は、収穫間近の玉ねぎと芽吹き始めたジャガイモの緑が美しい。そして、数は少ないが、えんどう豆も白い花を咲かせている。時々、加藤先生が生徒達と畑仕事をしている姿が見受けられ、実に微笑ましい。

ところで、表題の「ツタンカーメン王のえんどう豆」とは、黄金マスクで知られる古代エジプト王国ツタンカーメン王のピラミッドから出土した豆であり、それが3000年以上の時を越えて芽を出し、実をつけたという。現在、その種子が世界中に出回っていて、以前、私も栽培したことがある。赤い花が咲き、さやも赤紫色だが、実は緑色であった。食しながら、ツタンカーメン王と古代エジプト王国の時代に思いを馳せたことであった。

私たちの「いのち」も、また、地上に生命が誕生して以来、脈々と受け継がれてきた。その間、地震や洪水、飢饉、疫病流行、さらには戦争など多くの天災・人災があった。私たちの「いのち」はそれらを乗り越えてきた結果、今、存在する。それを思うと、実に強く、たくましい「いのち」であり、改めて、父母、祖父母、曾祖父母・・・と私たちに「いのち」を繋いでくれた御先祖様に感謝の気持ちで一杯になる。そして、自らの「いのち」を大切にすると同時に、他の「いのち」もまた、尊重しなければならないと思う。いよいよ、「いのち」輝く芽吹きの春の到来である。

## 平成27年度学校経営総括

今年度は、創立50周年を迎え、式典・行事等、記念すべき年となりました。また、昨年度同様に「明るく、楽しく、活気あふれる学校づくり」の学校スローガンのもと、教育活動に取り組んできました。特筆すべきことは、進路面において就職内定率100%、進学合格率98%と本校の誇る高い進路達成率を残せたことでした。

部活動においては、弓道部が「わかやま国体」、男子バレー部が「全国私学選手権大会」、空手部が「全国大会」に出場しました。また、女子サッカー部・バドミントン部等で県大会での活躍が見られました。生活面においては、チェックカードの導入に伴い、頭髪や服装面においては、改善の方向にあります。課題点としては、依然として、授業態度や高校生としての自覚不足からの軽率さが問題行動につながるなどの課題が残りました。平成28年度は、今年度の反省点を改善するために、実践的な活動に取り組み、創立50年という節目を新たなスタートとし、更なる飛躍を目指します。

## 自動車工学専攻科「卒業式」 — 17名が学舎を巣立つ

3月5日(土)、平成27年度自動車工学専攻科生17名の学生達が、本校を巣立ちました。多くの保護者も参加され、厳粛な中にも心温まる卒業式となりました。

前日、4日(金)には表彰式が行われ、「日本私立中学高等学校連合会会長賞」に山川拓馬君が、「産業教育振興中央会会長賞」に野田誠也君が、それぞれ受賞しました。

自動車工学専攻科に入学してから目標としてきた二級自動車整備士の国家試験が、今月20日(日)に実施されました。この2年間、専攻科で学んできた知識を出し切り「全員合格」してくれることを信じています。

近年、自動車業界は整備士の人材不足が問題となっており、専攻科の卒業生は貴重な人材となることは間違いありません。しかし、新しい動力源を利用した自動車が実用化されたり、自動停止ブレーキや自動運転等の高度な技術が採用されるようになってきました。このような技術を修得するには、より一層の自己研鑽が求められます。自ら学び、率先して行動し、自動車産業や社会から求められる人材となることを願っています。



## 平成27年度第2回「学校評価」から

今年度の学校評価の総括として、生徒アンケートにおいて、昨年7月に実施した第1回と比べ、第2回は、満足度70%~80%程度の評価数値を維持していますが、全体的に低下傾向にあり、気になるところです。保護者アンケートにおいては、第1回と第2回が目立った差はなく、特に「佐実を選んでよかった」の項目では、年々、向上しており、保護者からの本校教育に対する御理解を頂いています。課題点は、例年同様、家庭学習の定着・基礎学力の向上等が上がっています。来年度も将来の夢や設計を考える「生き方、在り方教育」をさらに充実させ、改善を図っていきます。

## 平成27年度 退任職員紹介

3月は別れの季節です。本校でも7名の先生方が退任されることになりました。なお、退任者は次の通りです。

氏名	教科	氏名	教科
福田ひとみ 先生	養護	西村 真緒 先生	地歴・公民
町田 實 先生	理科	久保 好信 先生	機械実習
小玉 修一 先生	保健・体育	田中 貢 先生	事務
早田有理子 先生	全通・国語		